

# 43年度 冬山合宿報告書

(赤沢山東南尾根 → 西岳 ⇄ 槍ヶ岳  
→ 燕岳 縦走)

信州大学山岳会  
伊那松本山岳部

予夫中一と、雨か、如  
 ずッの、た、かな、の、目  
 此困者、た、た、良、性、が  
 さ、案、ミ、た、た、良、性、が  
 存、た、正、セ、あ、の、が、て、導、等  
 が、ぎ、日、の、で、た、方、く、指、ス  
 定、の、で、分、し、た、ま、る、ミ  
 確、出、る、ま、た、に、し、う、す、の  
 の、が、め、岳、不、別、に、が、料、上  
 一、い、ち、西、が、を、名、げ、る、に、行  
 パ、違、す、結、係、又、上、あ、注、進  
 じ、い、に、が、運、シ、ン、を、荷、て、年、の  
 又、噴、的、の、シ、シ、係、の、ら、一、係  
 の、の、谷、あ、係、シ、の、係、の、一、係  
 階、等、差、で、名、と、そ、の、か、の、各  
 段、夫、を、然、等、係、と、そ、の、か、の、各  
 画、さ、宿、当、上、Esse、に、し、か、生、調  
 行、け、合、は、上、Esse、に、し、か、生、調  
 進、上、る、も、の、荷、は、諸、し、が、二、の  
 の、く、あ、る、し、を、一、ク、も、上  
 宿、処、で、な、る、し、を、一、ク、も、上  
 合、を、の、に、Essen、の、係、次、は、山、生  
 ホ、ま、心、で、れ、方、思、た、三、た、

構、を、に、な、話、を、か、今、通、ッ、で、も、ろ、な、て、は  
 心、任、か、康、は、く、度、う、が、色、か、と、が、り、た、た、と、は  
 る、責、か、健、て、よ、健、了、う、な、な、を、事、け、り、か、え、と、  
 ず、の、か、々、の、を、本、か、思、振、て、式、た、た、な、上、か、す  
 料、を、同、備、る、等、基、な、の、持、形、し、練、中、か、に、出  
 に、て、時、不、い、方、の、は、く、回、を、散、実、訓、ら、り、一、い  
 山、係、に、の、て、し、ろ、て、い、今、欲、分、充、う、の、得、登、ハ、見  
 入、名、の、備、ぎ、か、が、の、て、が、意、と、思、た、か、山、こ、を  
 も、つ、装、ち、動、な、り、る、行、か、つ、と、た、し、し、メ、義  
 て、か、持、入、丹、の、昔、な、る、取、山、の、も、る、が、果、か、が、意  
 い、い、を、個、く、節、る、る、に、も、か、た、て、あ、宿、成、し、感、つ  
 亦、な、度、も、甘、態、す、な、行、一、ハ、小、が、合、の、る、実、持  
 に、は、態、て、を、形、対、は、山、か、バ、あ、こ、要、は、か、あ、充、を  
 入、て、る、み、山、の、に、取、の、た、こ、て、押、必、に、あ、で、痛  
 個、の、た、て、し、部、山、け、式、出、又、の、發、る、雨、切、う、合  
 各、た、生、ッ、少、在、形、か、も、が、み、す、大、思、て、  
 も、各、と、来、が、さ、散、省、め、た、欲、て、に、は、ほ、と、し、る、  
 て、か、上、を、等、近、る、直、分、反、た、ま、悉、入、行、ら、的、の、く、れ  
 い、な、の、入、え、ほ、い、え、は、の、た、て、行、考、山、な、目、な、な、り  
 あ、て、係、個、體、部、は、考、ろ、ろ、出、山、を、る、た、の、は、を、思  
 に、分、各、心、我、て、度、か、い、あ、に、ば、か、あ、宿、て、の、と  
 係、充、し、各、心、我、て、度、か、い、あ、に、ば、か、あ、宿、て、の、と  
 各、か、た、事、す、か、あ、つ、こ、い、行、た、た、な、る、価、あ、合、の、い、だ  
 え、は、た、対、い、じ、も、回、山、た、た、き、の、う、る、と、困

行動表	松沢 本渡	上 宮 地	明 神	T S	横 尾	二 の 俣	B C	テ ホ 地	C <sub>1</sub>	赤 沢 山	テ ホ 地	(西 岳) C <sub>2</sub>
12月 24日	→ (寺沢 笠原)											
25日				→ (寺沢, 笠原 Ken) 2名								
26日	→ (ムトウ 米倉 栗田)		→ (山下 井関)									
27日	← (甲蘭)			→ (寺沢 笠原)	→ (ムトウ 米倉 栗田 山下 笠原 笠原)	→ (山下 Ken)	← (他全員)	偵察 テホ				
28日				→ (井関)			← (全員)	← (ムトウ 米倉 栗田 笠原)	Ken 山下			
29日							← (ムトウ 他 5名)	← (山下 Ken (Fix))	← (6名)	← (テホ)	← (入山者 全員)	
30日								← (全員)				
31日								← (米倉 栗田 井関 笠原)				
1月 1日												
2日										← (米倉 栗田)	← (井関 笠原)	

	赤坂 C II 命岳	赤岩岳	槍岳	大天井	T S (C <sub>3</sub> ) ② 下 山 の 途 中 に 行 く	燕山荘	中房 温泉	信濃常盤	松本
3日	△山井 デボ								
4日									
5日									
6日									
7日									
8日	(Attack 隊) → (他 全員) ←								
9日	(Attack 隊) ← (木, 米倉) →			11-1 工作					
10日	全員 →								
11日					全員 →				
12日							全員 →	下山	

冬山合宿行動記録

コースタイム			
12月26日	4:45	松本部室	<ul style="list-style-type: none"> <li>○天候は午前中は曇, 屋外に小雪 2時頃より雪本降.</li> <li>○マイワロバスで入山, 中の湯の積雪35cm. ガソリンの重さは平均35kg.</li> <li>○木村小屋に計画書を提出, 昼食</li> <li>○明神の山のふたやで W.V. の先バク小宮山氏を訪ねる.</li> <li>○この日入山予定の井関さんが急な用事で1日おくれる.</li> <li>○釜トンネル中にフススが下っており気温が高かったのが危険であった.</li> </ul>
	7:00	) 中の湯	
	7:25		
	8:20	) 大正池	
	8:35		
	9:10	) 上高地 (木村小屋)	
	9:45		
	10:35	) 1本	
10:50			
11:15	) 山のふたや		
12:15			
1:25	) 徳沢		
1:35			
2:25	横尾手前 設置		

12月27日   メンバー: 武蔵 米倉, 山下, 扇能 栗田, 生原, 笠原, 寺沢

コースタイム   4:30 起床, 7:30 出発, 8:20-8:35 横尾をりし通過した所, 9:25-9:50 榎見平(昼食) 10:55 B,C 着, 12:10 → 2:00 赤沢東南麓根のラッセル, 3:35 B,C 着.

天候   早朝うすくもりであったがしだいに回復し正午には快晴

状況   昨日のデバを20分経た所で先に入山した 笠原, 寺沢さんに会う, 寺沢さんは下山, B,Cまでのラッセルは荷が重いため苦しかった. B,Cに着いてからは, 山下, 笠原で先行ラッセル隊を送り, 後 武蔵, 米倉, 扇能, 栗田, 生原 で再びラッセル, 同時に ESSEN, 井戸40m, 1本, クルナ30m 1本, リンク4本をデポ.

27日、ラッセル隊 山下、笠原

11:25 B.C 発 12:00-12:25 トランシーバー交信

1:00-1:20 2200m付近で トランシーバー交信

2:05-2:40 引返す 2300m付近

3:35 B.C 着

ブッシュはあまり多いが急なラッセルにしろかれた。  
信太の赤旗は良いルートとならず、白稜会の赤旗を  
目的にした。

12月28日

本隊: 武藤 米倉 扇能 生原 栗田

C1隊: 山下 笠原

コースタイム

7:40 出発 8:30-8:40 1本 9:20-9:30 デボ地点

9:40 ラッセル終了後 12:25 C1 予定地 設置

3:25 出発 4:15 B.C 帰着

デボ地点まで快調に到着。デボのうさギールなども  
持って ラッセル終了まで行く。

1年生のラッセル練習。昼前から吹雪になり冷えてくる。

C1 予定地に着いてから米倉、笠原がテント地を見に行

後、山下、笠原がデボ回収に下り他の者は言及營。

ランラスを B.C から C1 に上げるのをためたことに加え  
笠原が B.C へ下る。

C1 設置を終った扇能、生原、栗田は B.C に下りた。

武藤、米倉は山下を迎えに行き山下の荷をうけて

C1 にあがり、のち B.C へ下る。山下は、笠原を迎えに

下り、右流して C1 にあがった。

昭和43年12月29日

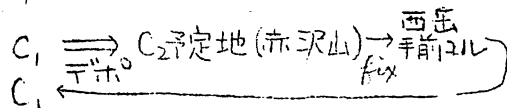
行動記

前進隊

記入 佐原

行動表 メンバー

L. 山下 敬原 敬一



荷上げ表

富士食 西岳用 アタック用 主食 アタック用 サイル 1 Fix用クレナ1

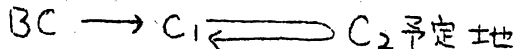
ハンマー 1 ハーケン T2 Y2 K1 E1 ホール Fix使用 3リガ11

コースタイム	天候	状況
C1発 7:25 小休止 8:10 8:25 Fix点 8:55 30m 9:30 赤沢山 10:15 10:30 テポ地 10:40 10:50 F) Fix 11:05 13:00 本隊と合) 13:40	① 絹層雲    ④  ① 突風のような風 中 ① 息の強い風 中	寒くて朝早くよりラツをたく。2名を先行パートがいたので後から行く。赤沢手前の登りで30m Fixする。赤沢山では天気がよく景色がよかった。テポ地を決め下りのFixを始める。この頃より風が強くなりFixが思うようにはかどらない。Fix地点はやせた岩まじりの急な下りでカンバを支点にした。クラストしておりアイゼンがよくきいた。ユルまでFixをし引き返す。ヒークは風が強いのので風のあまりあたらないうところで本隊をまつ。

後進隊

記入 井関

行動表 メンバー



武藤 庸能 米倉 井関

荷上げ表

BC → C1 Essen 前日の残り全部(含BC用) テント サイル(+iron Fix) ガソリン 15L etc.

C1 → C2 予定地

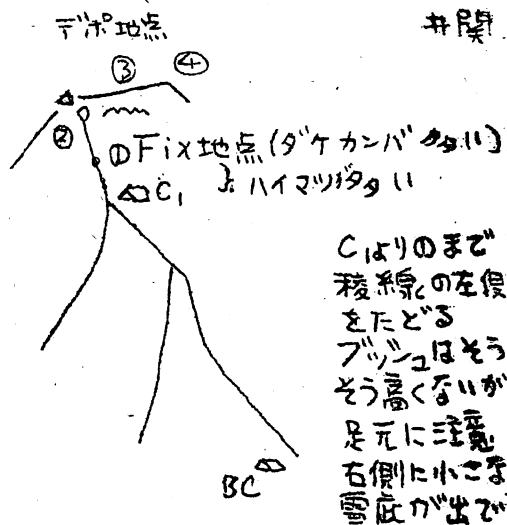
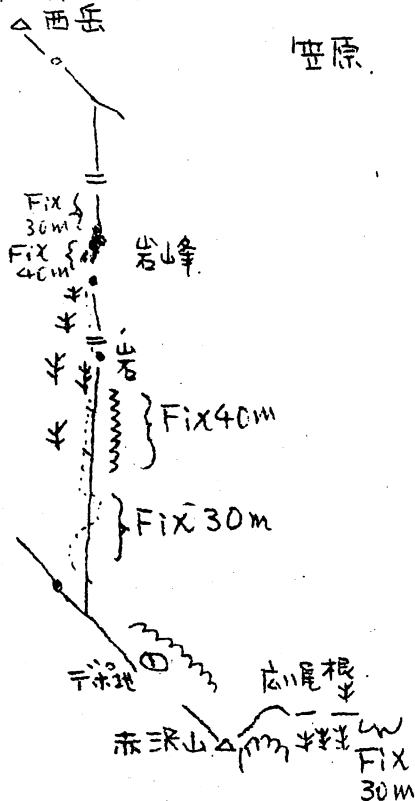
石 30 18L

Essen C2以後 一斗カン5 タンボール2

コースタイム	天候	状況
4:20	朝のうす無風	起床 Essen
5:20	快晴	出発 昨夜ホリタンに氷を作っておいたためか Essen は
7:30 出発	8:30 -8°C	きのほど時間ばかりはかからなかった。
8:30 1本	曇りより雲が	C1までの道のりをトレースをたどり3ピッチで着く。
8:45	広がり始める	直ちにC2予定地に向う。1人15kg程C2予定地まで
9:50 1本	稜高にガスが	トレースがありFixもしてあったので快言風。Fix地点
10:15 昼	かかる	をすぎて時折猛烈な地吹雪に見舞われる。稜線
11:00 C1	時折地吹雪	出てからは濃く、吹き飛ばはさけそうであった。
12:00 C1	5:00 稜高は	赤沢山直下でFixに行った山下壺原partが
1:00 Fix	ガス	出会う。帰りは共に下りてくる。
1:20 上部	稜高の上は善造	
2:00 C2		
2:10 ティポ		
3:00 C1		

Bcより6名 武蔵 扇能 米倉 井関 栗田 生原でBCの荷物を全部C1に上げる  
 C2のティポ石油18L Essen-タンカン5タンホール2 etc.  
 C1に残っているEssenは50~60kg  
 C1にてティポをいれたたぐ5年程前のものらしい。肉のカンヅメががが五と  
 入っていた。さっそく夕食のまかす」と相成った次第 またケリウ効果は  
 現われてないツ。

ルート図



- C1よりのまで稜線の左側をたどる。ブッシュはそうそう高くないが足元に注意。右側に小さな雪底が出ている。
- ② 赤沢山直下 左側に雪底 横断 行く。風が強くとレスがすくまらぬ。
- ③ ④ 雪底発達している稜線の左側に行く。



12月 30日

朝  
天気快晴、 9:30～11:00の間地吹雪 後風雪。

C1から 武藤(山)・井関 が赤沢山・西岳間のフィックスの為先登。

後登は米倉(山)・扇能・山下・笠原・生原・栗田、で、テント一張とそれに伴う火器・食器、食糧、石油灯。それにアタック用の登攀具食糧をボツカ。赤沢山に荷を少しデポして 米倉・扇能・生原栗田はC1にもどり、武藤・山下・井関・笠原は テントとC2用食糧を持って西岳にC2を設営した。

(後登隊)

C1からは緩い登り、ブッシュに足をとらぬように注意して歩く。右手、木の俣俣りが比較的切れてあり、屋根が左へ曲がり、赤沢山に向かつて進むようになるあたりには小さいが、雪庇ができている。ユルからの登りのフィックスは 武藤・井関が撤収した。急登を終りつたあたりで先登隊に追いついた。先登隊は重荷でのラッセルでかなりヨタっており、全員 目出帽・ヤッケ・ミトンなどで完全武装した後、井関と米倉が交替して、武藤・米倉で、西岳の登りカールト工作に出発。残り6人は赤沢山のデポ地点でツェルトを被り、待機。

赤沢山から西岳ヘリポートの間を完全にフィックスし終わったので、待機していた6人が西岳へ向かう。西岳への登りはクマザサの急斜面で雪が不安定で登るのに難渋したが棒が良きフィックスの支点になっている。西岳小屋の横にC2を設営~~を~~を決めて、米倉・扇能・生原栗田はC1にもどる。

<TIME>

8:05 C1 発。 9:10 赤沢山デポ地着。 12:30～1:30 西岳小屋。 2:50 C1 着。

12月 31日

<C1隊>

天気・吹雪・のち風雪

5時起床 朝食ののち待機・9:30 沈没決定

C2も沈.

1月 1日

<C1隊> <C2隊>

天気 風雪・沈没

1月 2日

<C1隊> L.半倉・扇能・生原・栗田

天気 風雪

5時半起床。食糧はまだC1用に2日分残っていたが沈没に少々飽き  
にカで出発することにした。赤沢岳から先は、かなり強く吹いてい  
ることが予想されたが、完全にフィックスされているし心配ない。

テントを撤収し 8:30 発。全コースを扇能がTOPで激しい  
西風によるけながら西岳着。テントが見えないので一瞬不思議に  
思ったが、冬期小屋の扉から、見おぼえのある顔が現われた。

12:30 西岳着。テントを設営し、8人が四日ぶりに11ツトに  
寝ることになった。8人用のテントに8人が泊るとやっぱり暖かい。西岳  
の2人はかわいそうだが中の6人はスリーシーズンのシュラフでも困らない。

1月3日 デボ回収

(L) 武蔵、山下、井関、空原、

コース914

8:30 C<sub>2</sub>出発、 9:05 赤沢デボ地 9:50 C<sub>2</sub>着

天候 ㊦㊧ ガス西の風小雪 ㊦㊧ ガス高層雲 ㊦㊧ ガス高層雲

状況 7:00 出発の予定であったが天気おもわしくなく8:30 出発

Fix 地点は思ったより雪が積ってなくしまっていた。

岩山をまく所と赤沢の登りの途中に入ままだまがかり

ちょっとイヤな感じかいた。

赤沢のデボは無事であった。天気はそれほど激しくは  
なかったが気温がさうとうさからてさびしかった。

テント補強、ブロック建設、雪洞作り

米倉、扇能、生原、栗田

8:30 — 9:00 テント補強、ブロック積み

天候 午前中小雪、風弱し、気温 -20℃弱

午後 は午前中と同様

すぐ近くのクラストした雪を選ばスcoopでブロック  
を掘り出す。

高さは、テントの多ほど。

午後 昼食の後 雑煮、そして玉子焼、豆、さしづ

こほう、カマホコ皆 おいしく食べた。

正月3日月には、やっぱり元旦気分ができました。

W.C.  
小屋

西岳小屋

雪  
径

直径2.5m

SACテント

冬期小屋

1月4日、5日、6日、7日

沈殿



フ信で、くかッの  
を交す、長くたむ  
今、斗、く、既、痛  
に、一、て、ベ、リ、ス、が  
ホ、バ、て、し、る、被、ウ、齒  
デ、一、申、ク、な、を、ジ、の  
け、シ、の、ふ、が、ト、ラ、喉  
々、こ、屋、を、だ、ル、に、武  
我、ラ、小、人、ウ、ツ、夜、中、  
か、ト、た、ジ、な、て、風、  
た、く、さ、ラ、ら、着、す、た、  
い、お、び、ら、な、を、ま、  
て、て、信、い、に、の、さ、ら、  
い、っ、交、寒、身、も、を、か、  
立、わ、て、が、る、る、目、れ、  
通、断、て、た、頭、着、も、そ、う、  
運、事、と、て、有、の、何、す、も、  
の、い、っ、か、り、に、か、を、  
ポ、は、や、作、な、い、め、わ、葉、  
デ、て、と、を、も、が、た、を、に、  
の、の、る、ツ、て、方、の、茶、原、  
会、た、す、タ、り、た、さ、お、笠、  
岳、付、さ、ゴ、て、寝、寒、て、で、

西岳 T.S 10.00 ~ 水俣乗越 11.45 ~ オ一の鎖場 12.50 ~ オ二の鎖場 1.50 ~  
大橋ヒツジの上で昼食 3.00-3.20 ~ 肩の小屋 4.00

9日、今日、山、下、お、り、あ、る、あ、る、い、か、わ、ら、ず、肩、は、凡、の、吹、き、ぬ、  
け、が、強、い、ム、ト、ウ、山、下、お、り、あ、る、あ、る、い、か、わ、ら、ず、肩、は、凡、の、吹、き、ぬ、  
ス、は、も、の、さ、す、リ、し、て、強、く、な、い、30、を、使、小、さ、ご、し、槍、を、消、え、た、は、し、五、眠、  
ゴ、は、月、の、た、ま、き、と、あ、る、の、る、ウ、の、さ、れ、の、ん、た、け、は、は、ら、  
は、さ、の、重、い、か、た、あ、る、の、る、ウ、の、さ、れ、の、ん、た、け、は、は、ら、  
候、り、の、後、ん、き、さ、で、は、の、る、ウ、の、さ、れ、の、ん、た、け、は、は、ら、  
下、長、片、の、雪、し、水、  
イ、ゼ、イ、

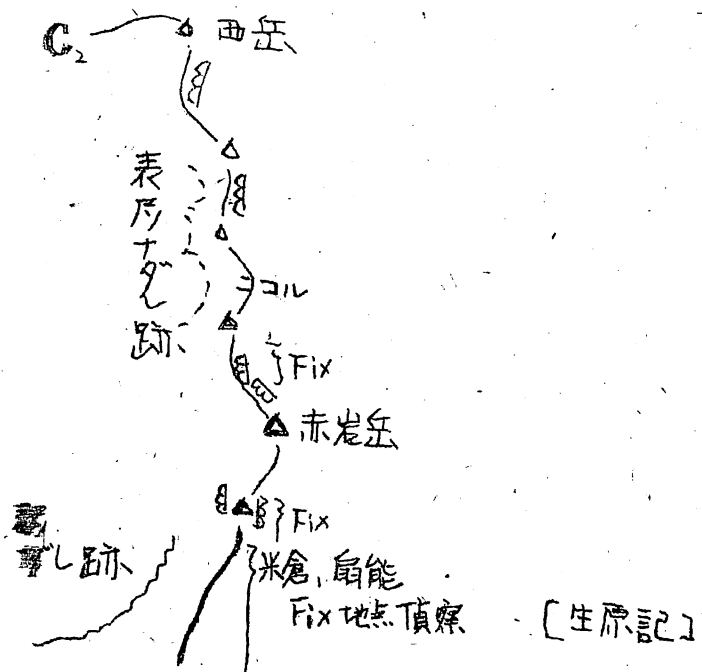
8:40 発 9:00 槍 9:35 発 10:05 小屋発 10:10 トラバースをすぎた所  
11:20~11:35 オ二の鎖場 12:50~1:25 水俣乗越の五岳ヨリ  
2:30 小屋

寺 米倉(L) 扇能 栗田 生原、  
 暗い内)は風も強くア、クは無理な状態にあったが序々に  
 太陽を見ることができた、風も弱まった。行動中の天候は  
 曇り、槍方面よりガスがかかると、風も強まったがさほど  
 怖れなかった。

西岳(11:05) 赤岩岳(11:50) 米倉 扇能 Fix地点偵察(12:25)  
 2:30) 赤岩岳池(13:00) Fix(13:10) C<sub>2</sub>(13:55)

ヒッパ(50分)で行くことが出来、快調であった。  
 強くはなく、スムーズに行けた。  
 食の残りを食う。糸工茶もついでに作る。  
 1 espen作り、天気図書き。

山  
 景



月9日 扇能米倉 { 赤沢山 Fix回収  
赤岩岳 Fix設置  
栗田 生原, Tent keeping

扇能米倉, Fix party

8:20 T.S 発 晴・風力 2~3

↓ fix回収 (赤沢山)

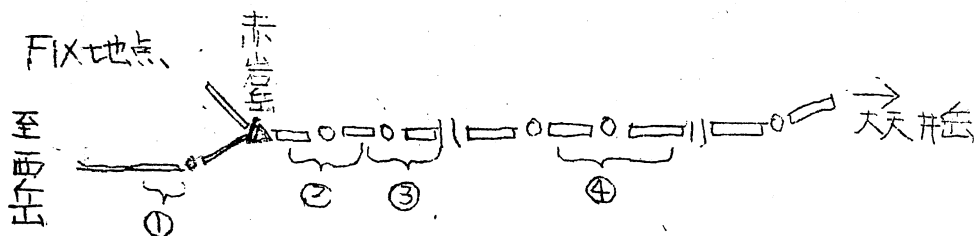
9:40 帰天 トランシーバー 倉食)

10:40 T.S 発

↓ 赤岩岳 fix 晴 風力 4~5

13:20 T.S 着

昨日、見ておいた所に fix rope 4本 150m を固定する。ニルを吹きぬける風は激しく、飛ばさぬようになる。(軽い東偏にかかった。)



① 赤岩岳の予前の岩峰の登り 30m.

② 赤岩岳、東方の岩峰、ニッ

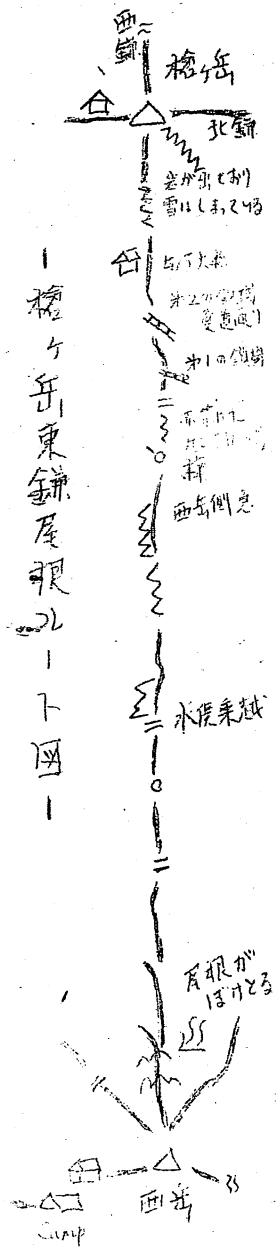
③ 稜線上を行かぬばならないのでかなりキビシイ、

南斜面は全部新雪雪崩が起っている。足元からすぐ下ガナダレのあとである。

④ 雪稜の下り足元が不安定なので、おまけのつもりでfixした。

∴ 10m 平均にカンバかば松にシリングで固定してある  
小さくトラバースするのは案外なのであるが、昨年来から降り糸売いた雪が雪底を残して、すぐ下から雪崩起っている。忠実に稜線を行かぬばならない。 <米倉記>





檜ヶ岳東麓屋根ルート図

事で度をダレしめぬにの事  
 う気何綱一をた先生  
 ろ矢をりり作る年赤  
 あり雪張日エす作一線  
 どりりか前節約さる接  
 でははめか節約かすど  
 ま朝又たうのを収めさん  
 今りはた食近周回じ意  
 もう収しを付時分は注  
 っと撤り向岳は分は注  
 持たトた研岩日でつさ  
 のいこめに赤今奥らる  
 気てきたのと井もろは  
 天し。かす野た倉てこ  
 想たみ出扇ら米しれ一  
 予っふり倉も上谷は  
 をあも堀米てに出谷は  
 10日  
 予  
 堀  
 米  
 て  
 に  
 出  
 谷  
 は  
 北  
 嶺  
 (お)  
 岩  
 が  
 崩  
 れ  
 は  
 く  
 ち  
 や  
 北  
 嶺  
 (お)  
 岩  
 が  
 崩  
 れ  
 は  
 く  
 ち  
 や  
 北  
 嶺  
 (お)  
 岩  
 が  
 崩  
 れ  
 は  
 く  
 ち  
 や  
 北  
 嶺  
 (お)  
 岩  
 が  
 崩  
 れ  
 は  
 く  
 ち  
 や  
 水  
 鏡  
 乗  
 越  
 尻  
 根  
 が  
 ほ  
 け  
 と  
 る  
 西  
 岳

取っている様子、解肉前におてを張ることにして  
燕門吊巻、大天井よりひたひたのビークから中房  
側におりてひろ大なる天板を、たが腐もなく広  
いので全員を少しもとらせた、細く、て設営をした  
が全員渡り合っている様だ。た。

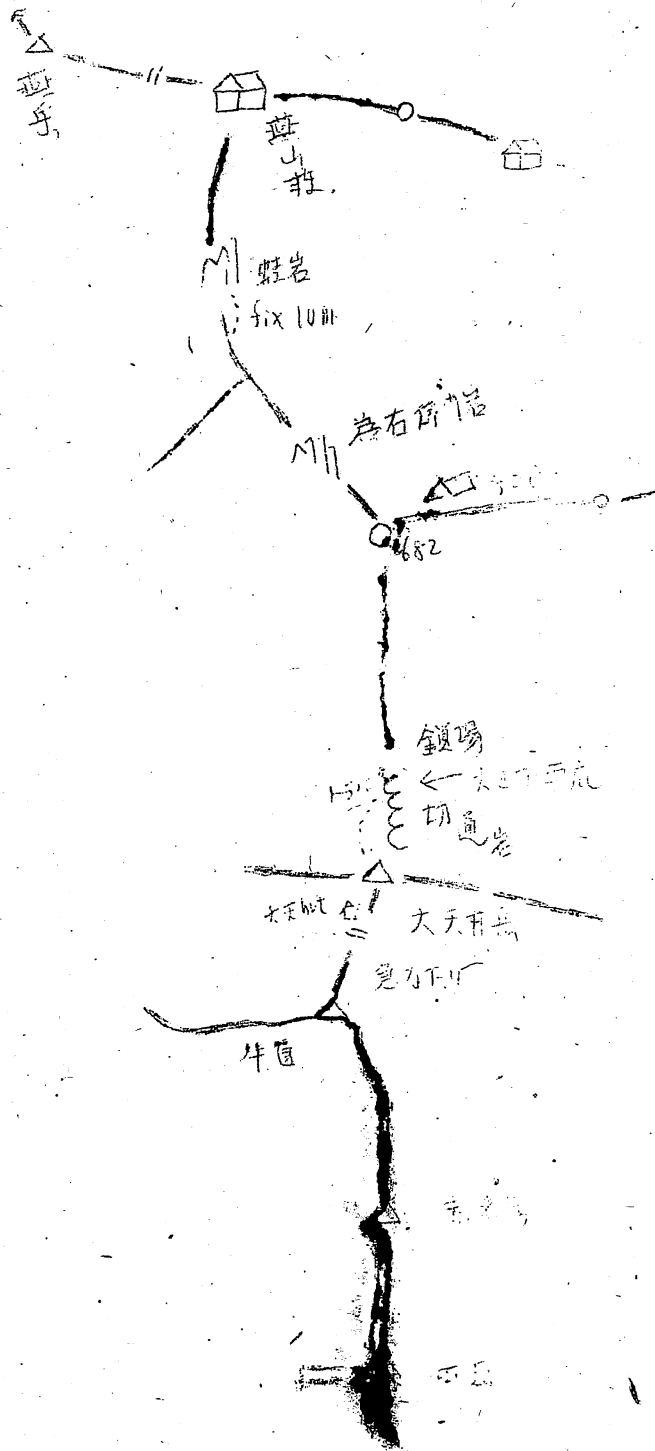
起床 5.00 - 西岳 TS 8.10 - 赤岩岳 9.20.35 - 大天井ヒツの前 11.25.55  
牛首岳 12.45.400 - 大天井 2.20.35 - 韋老の手前 3.25.35 - 韋老  
5.00 (テントを張るため中房側へ出ているを頼みで引きかえす) - TS. 5.30  
9.45 始る

中房側へはいなのりが割合おだやかな天気で  
中房側へは、とぼさぬたところを大体夏真どうりに  
よく、中房側へは、とぼさぬたところの下りは fix  
10.00 まで、中房側へは、とぼさぬたところの下りは fix  
とやがて燕山荘についた。燕山荘の冬期小屋はすこぶ  
る立派なものなうであつた。ケールの下を下ると  
展望台へ行く。ここでもりつものくせで Essen の食ッ残  
しがあつたので昼食とする。ワッパにフケかえて中房  
側へ下る。中房側へはホテルへ温泉に入浴してくれ  
よう奇蹟のにい。た。ホテルの風呂を使わせていた  
たく御厚支にあつた。その後お茶をのんだ。し  
ばし話がはずんだ後テントへ帰る。ホテルの皆さんに  
はおやかりになつたことをここでもう一度感謝したい。  
Essen は上田のあまりものもちなどをありがたいた  
た。

TS. 8.55 ~ 韋老登りの上 9.45 - 韋老の手前の fix 11.30 ~ 燕山荘  
12.25 ~ 展望台 12.45.1.05 ~ 中房温泉 2.45.3.05 ~ テニ場 3.08  
(12.45 1.05 - 1.17)

12日 雪の降るなかを自動車道路を歩く。宮城に着  
いたのはバスが出たすぐあとであつた。追分駅まで4  
キロほどなので歩き出す。追分は畑や野原が続いて  
いるところを通りたんだん人家が多くなりはじめたところ  
をすぎても川を渡るとそこが追分駅であつた。小さな町の  
駅である。ここから大車路に乗って松本へ帰る。

~中房 遊下 5 7:35 ~ 登り坂の上 5:40 ~ 1本 9:30 40 ~ 黒川  
 食 10:30 50 ~ 宮城 11:20 35 ~ 辻分 12:15 1:40 ~ 部屋 3,000



## 装備係反省

山下泰弘 笠原敬一 生原寛

今回の冬山装備係を担当した我々はまず最初に入山は出来なかったが積極的に準備にあたり、多くの佐藤に感謝の意を表したい。また今回のポイントは T<sub>1</sub>, T<sub>2</sub>, Attack と装備が分れる前であった。特に Attack 装備は兼ね合いがあったが他の装備と独立させたのは Attack 生発の準備がスムーズであった。反面モノクシ装備の軽量化も考えるべきである。入山前注意しおいたにもかかわらず今回も装備の物失があった事は誠に申し訳ない。我々の不注意であるがメンバー全員が気を付けてほしい。次にテントであるが入山前の点検が不十分で前に修理してところかとおぼしかった。破損は強風の為にフレームのテントに穴とあり他、内張りの引っかけも壊れた。お互いにくれぐれ注意しよう。テントの修理であるが山での応急処置は接着剤よりもゴムテープの方が取り扱った便利だし強度もあるように思う。

我々の反省であるが、先に述べたように佐藤に負うところが大きかったように思う。チームとの連絡が不十分で一年生に積極的に動いてほしいと言った。我々の係というのを充分知ってほしいと言った。これはスタッフとしての責任があると思う。入山後は互いによく動いたように思うが、小さな注意がなくて、その為に装備物失が起きた。小さなミスから大事が起こるのだから充分注意し、ミスを起さないようにしなければならぬと痛感した。

## Esseen 係より

井肉茅郎 栗田昭夫

準備段階において計画を立案する際、テボの都合もありほとんど一人で進めていった。その結果一年生が立案したのだから X'mas 正月用にとどまらなかった。計画ではその矛針としてレーションの簡素化という事で副食の重量を統一し pack を 2人用と 4人用の 2種類にして登山用に調味料を入れているという方法をとりました。しかし実際には使用しきれず調味料は列にまとめてテント毎に置く方法にすまなかったと思われ、重量の軽減については今回は余り大きなウェイトを置きませんでした。肉と玉ねぎの乾燥の2つだけでした。肉は 11kg 弱から 5kg になりました。野菜は乾燥が便利と生のまま持っていた方がよいのではないかと思われ、これ以上重量を減らすとすると米の乾燥しか残っていません。我々が持っていた米を乾燥して持っていくべきかと思っております。

# レーヨン係反省

米倉幸夫

レーヨン係というものが、計画段階ではともかくとして、合宿中に必要であろうかという事を強く感ずる。レーヨンの目的の一つに、炊事当番がどのパックを材料に使ったか、良か悪かを考えたり探したりしなくともいふようにする事がある。つまり、何月何日にどこで食った食糧はどのパックであるかという風に決めなくてはならないのである。各Boxには何人分、何食と記入するべきではない。これはレーヨン係と倉糧係、又途中のいきついでにレーヨン係とレーヨン係の向う協議がうまくなさないからである。今回は、泊り形式というのがあるが、縦走、ラッシュをいっしょにやったというだけで、あって全員が早いうちに西岳に集結したから全く混乱は起こさず、うまくいったものの、お寒い限りである。泊り形式をやることも考えようのである。その時に担当される人の為には一言も残さない。何月何日 朝の〇 昼×× 晩△△という風にMenuを決めなくてはならない。

- ① 献立は何種類か作るべき、どの山の食数を明示しておくこと
- ② 1 packに入っている食数は、パーティの数によるが、2~4人分が適当で、調味料、その他は別にそろえること。
- ③ ポール、ポルクスに決めたら、何食分とだけ示すこと  
 7月 誰でどこでどこで食べたか分かるという体制を作ることに 以上。

# 医療係反省報告

笠原敬一 生野 寛

(反省) 保健室のことだが、それがこれにあらうかと思っております。合宿にかけた医薬品が以前よりちゃんと入らないため、入らなくなりました。又、教養部の保健室からのみ毎回かりるのはたしかにまずい。今後、他の保健室へも行かなくてはならない。薬品のという面ではいろいろ検討したいが、事故もなからぬか、今から考えると多岐にわたると思っております。もっと研究する必要があります。又、抗生物質については、係と一時は、途方に迷ったので、あか、O.B.、山田さんの世話で、助かっているところである。薬品についても勉強不足であった。最後に大した症状もなく、皆無事に下山出来たことが、良かったと思う。

(報告) 入山中 使用薬品と使用量

ウゼ薬	5包	ユルラ	9 tab.	バンリウコウ
セキドク	2 tab.	ユルラ+コン		以上。
セデス	5 tab.	ホウ帝		

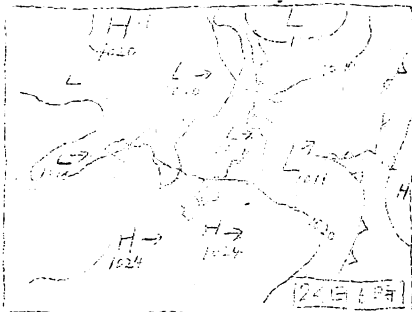
- もっとスクを払して観測したらよかったと思う。また係はかりが観測できなかったが、他の人たちにイッパ-全員に任せてもらってやり直さなければならなかった。この反省点である。がんしんを待たせようための資料がその目的をたてたからには、用があると思う。
- 今後気象観測をするかという事は、(資料にも書いてあったが)、正確な気象変化を見る目は、正確な天候判断をする目をやしなうということである。皆積極的にやってもらった。
- 気象観測をするにも、まだまだ勉強不足であった。特に気象変化から、天気の変化を予測すること、も活発にやりました。

報告 (気象記録)

① 入山前

23日の天気図では本州の南岸に発生した低気圧が早くもカムケツカ南部にまで進んだ。入山の早朝から西日本にかけて高気圧がはりだし、ほぼ冬型の気圧配置となってきた。しかし、すぐには型はノすれ、24日には、高気圧が東シナ海から本州の南海上に、低気圧がモンゴル方面からオホーツク海にのび、気圧配置は南高型となった。

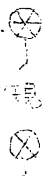
24日 (気象記録)



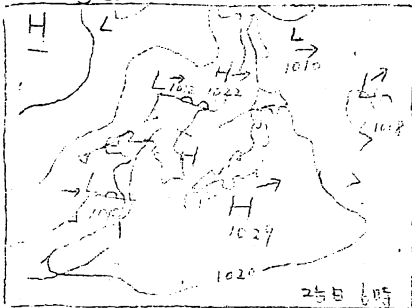
一日中 高層雲、積層雲

15:00 (5時) 雲が少し増え始める

-10°C



25日



6:00 晴れ ☉ -10°C 積層雲

10:00 曇天 ☁ -10°C " W

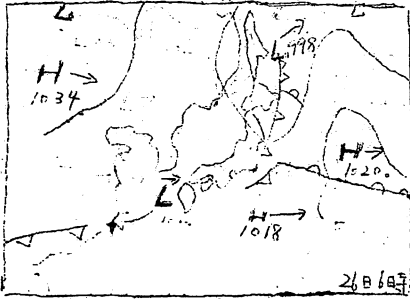
12:00 曇り ☁ " W

13:00 F.C. ☁ "

積層雲は低気圧が近づいているため、たろ。

26日

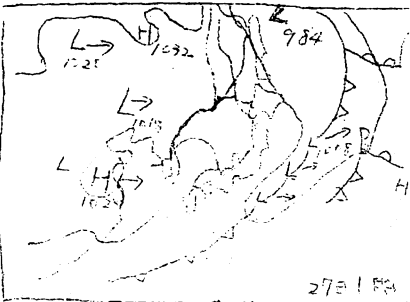
(本隊)



- 7:00 中の湯 ① 7°C 高層雲 積雪 35cm
- 9:30 帝国ホテル ① 2°C " 30cm
- 10:40 明神付近 ① 1°C 風が " 50cm
- 13:30 徳沢 ② -1°C 3 乱積雲 " 60cm
- 14:30 TS ② " " " "

雪となったのは 天気図をみてのとおり寒冷前線のためと思える。しかし大陸の高気圧は弱く、富士山では (12:00) に 4.0°C という高い温度である。これは寒冷前線の通過が、その時刻以後であることを示していると考えらる。LTカで 13:00 頃雪が降っている。

27日

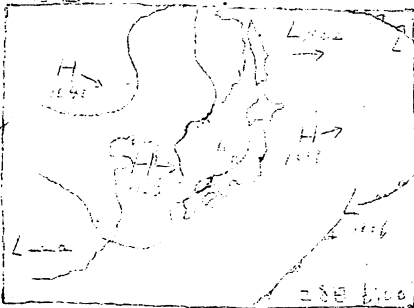


- 8:30 横尾付近 ① -5°C 同前 積雲
- 9:30 槍見平 ① -5°C " "
- 11:15 BC ① -3°C
- 12:00 テホ地嶺 ① 高層雲 W
- 14:30 テホ地 W ① -4°C 積積雲 W

あつがらうが、はつとしない天気図だが、気温が低く厚さ(雲+山 -4°C) 高気圧は北にかたよっている。

本隊には気圧の谷があり、冬型には付まだ 付らない。

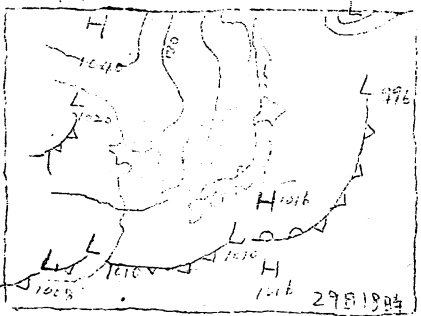
28日



- 2:30 BCとテホ地嶺 ① -1°C 高層雲
- 14:30 C1 ① -8°C
- 17:30 BC ① -10°C

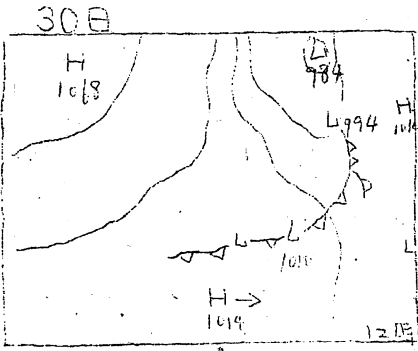
気圧の谷が日本を通過した、今度はかなり冬の型らしい気圧配置となっている。この日、日本の上空では 時速 200km という西風が吹きぬけていた。富士山では ① ということであつた(12:00)、大陸の高気圧からの吹き出しが はじまる、微後といえる。

29日

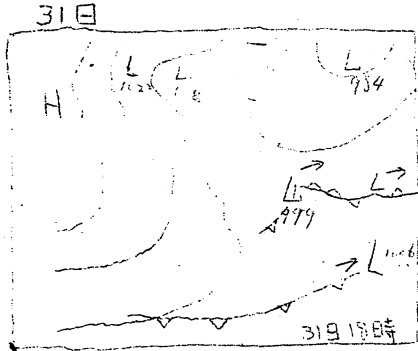


- 8:30 BCとC1の中間 ① -8°C
  - 13:10 赤沢登り Fix点 ① -9°C レンズ雲
- Fix 隊、は赤沢山〜コルの間で西北西の風にせげん吹かした。午後になるにしたがひ 槍穂連峰が異様な雲(乱層雲 糸層層雲)にフクおしてきた。大陸の高気圧は 1060 ミリバールと発達しているが北にかたよっており、天気図をみても、これが 10日近くもフクク 強い冬型になるうとは気がつかないかも山はないが、上層の風などから見ても明らかに強い。

冬型になることは予想できる。注意が必要である。

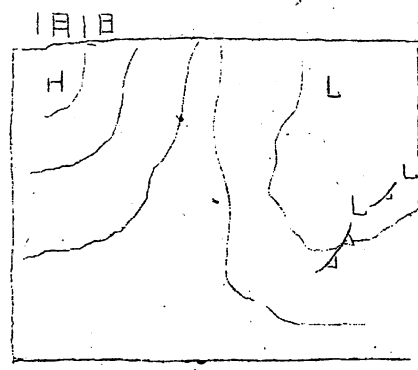


10:00 山の赤沢手前にて地吹がはげしくなる。大陸の高気圧、ますます発達し1068mbとなった。完全に吹き出しである。高気圧が北にかたまっているのを感じた。



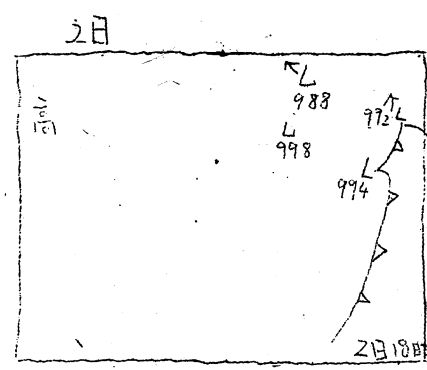
7:00 C, 風雪  $-11^{\circ}\text{C}$  乱層雲  
 20:00 C, 風雪  $-15^{\circ}\text{C}$  乱層雲

高気圧がさらに発達し風が強い。雪が降り出した。うたがまたまた強い。雪が降り出した。気温は低下していく。



9:00 C, 風雪  $-12^{\circ}\text{C}$   
 10:30 C, 風雪  $-12^{\circ}\text{C}$   
 13:30 C, 風雪  $-11^{\circ}\text{C}$   
 14:00 C, 風雪  $-12.5^{\circ}\text{C}$

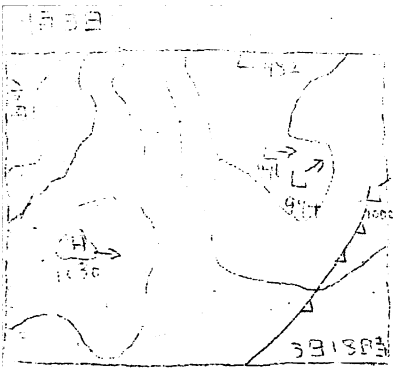
風は息があり、積雪がかなりはげしい。31日や高気圧は1080mbを記録。冬型の天気が安定して来た。



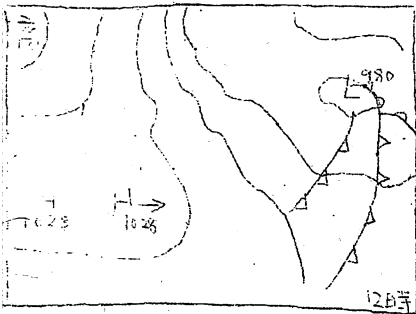
5:00 C, 風雪  $-18^{\circ}\text{C}$  乱層雲  
 9:00 C, 風雪  $-14^{\circ}\text{C}$

あんなに冬型であるか。高気圧が南へでてきたようだ。



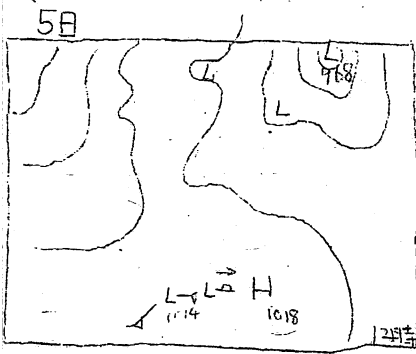


4日

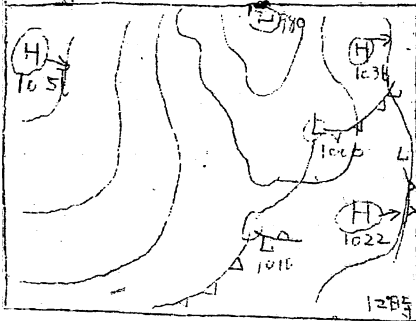


8:30 C<sub>2</sub> 風雪 -22°C 乱尺雲  
 10:00 C<sub>2</sub> " " -20°C "  
 12:00 " " " -19°C "  
 13:00 " 高尺雲 -17°C 高尺雲  
 16:00 " 風雪 -20°C 乱尺雲  
 20:00 " " -20°C

今日も冬型だが、華中には移動高になりそう  
 高気圧ができた。冬型よめまったが天気象(100%)



5日



7:30 C<sub>2</sub> -20°C  
 10:00 C<sub>2</sub> 風雪 -19°C  
 12:30 C<sub>2</sub> -18°C  
 18:00 C<sub>2</sub> 風雪 -16°C

天気図では冬型が、ちよと弱まってきているのに  
 実際はまた強くなっている。

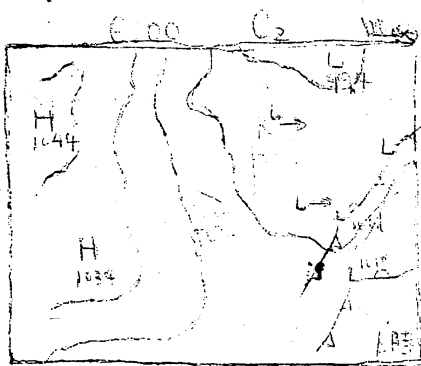
8:00 C<sub>2</sub> -16°C  
 10:00 C<sub>2</sub> -16.5°C  
 19:00 C<sub>2</sub> -14°C

天気図もまた冬型が強まる気配をみせている  
 このへんは山の雪が早く現れ出る

8:00 C<sub>2</sub> \* 風雪 -16°C 乱尺雲  
 13:30 C<sub>2</sub> \* 風雪 -14.5°C "

あ、かわらず冬型、再び移動高ができてくる可  
 能性がでてきた。

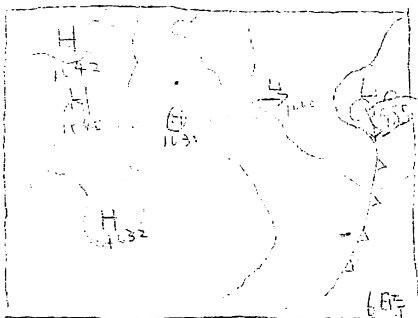
7日



7:00 C2 -18°C 積層雲  
 12:30 " -13°C " "  
 16:00 " -13°C " "

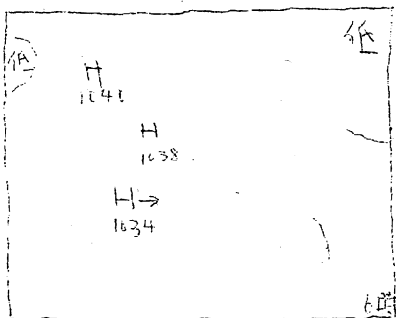
富士山では -26.0°C (12:00) やり雪と霧と  
 う天気。しかし華中列島気圧が移動して来ると  
 気配。冷たい空気が流れこまている。

8日



15:00 C2 -16°C 積層雲  
 Attackの日。どんどんガスがうまら。朝食  
 後晴れた。しかしこの明けはもう日本  
 海にはかなり低気圧が来ると見えて  
 15:00にはまだ2回をうかすおしり。地風吹  
 と9.6。しかし移動高水来るといふのは確定。

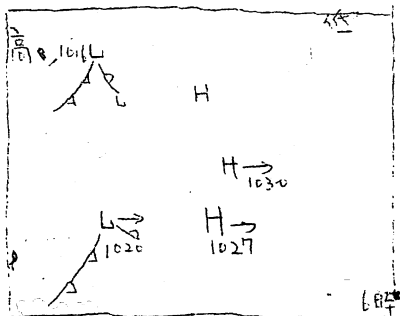
9日



7:00 C2 -18°C  
 11:00 " -13°C  
 13:00 "

最高の Attack 日とE迎及日の中である  
 午後同強くなる。

10日



8:10 西岳 -12°C 積層雲  
 9:25 赤岩岳 -8°C 積雪 積雪  
 11:30 牛道平前のコル -7°C 高積 ACI-F3

午後にならぬ西風強くなり地吹雪となる  
 24.17 どうやら寒冷前線に近づいてるのがある

11日

8:30 C4

⊗ -7°C 高層雲 SW

9:55

⊗ -6°C "

11:00

⊗ -6°C " SW

蒸から付合戦(高層雲)を下のに下り  
天気良くなる。高層雲が稜線上にあるか  
ら。気圧配置は表日本は気圧の谷に  
かかると、南は雲が多く北はよく見えた。

12日

6:00 中房

⊗ = -8°C 乱層雲

9:35

⊗ -4°C "

10:40

⊗ -5°C "

又々雪がふり出した。各所に"に"を

に"か"を"あ"う

<以上>

Ken

責  
不

個人の反省感想

山下泰弘

冬山あり宿合  
今冬あり宿合  
よ天候を信  
の登山方  
まよいか  
い  
り  
我  
お  
大  
ん  
あ  
の  
部

くさるうさ  
うでした  
まてした  
え居今  
方さ新たは  
さでの山岳  
部たう部  
しはた者も  
ににけはか  
たハく於て  
の会かう山  
に在るも  
り  
か  
信  
信  
の  
登  
方  
ま  
よ  
い  
り  
我  
お  
大  
ん  
あ  
の  
部

米倉幸夫

入山前  
状能ある  
うたなる  
る頃わ少  
加門才沈  
長

不節制か  
たたつて  
飯も満是に食へ  
器一杯を食へ  
がたりたの心  
あす清書  
は望く  
今希望  
と  
眠り  
か  
山  
子  
二  
た  
亭  
り  
か  
入  
調  
復  
な  
う  
に  
た  
胃  
回  
か  
の  
問  
は  
不  
節  
制  
か  
た  
た  
つ  
て  
飯  
も  
満  
是  
に  
食  
へ  
ら  
れ  
吐  
き  
過  
り  
た  
り  
る  
で



原敬一

今回の山合宿は、多岐にわたる山合宿の経験から、  
山合宿の目的、内容、進行、結果などについて、  
山合宿の目的は、身体的な鍛錬だけでなく、  
精神的な鍛錬も兼ねて行われることである。  
山合宿の内容は、登山、歩行、休憩、食事などである。  
山合宿の進行は、朝の集合、登山、歩行、休憩、食事、  
下山、解散の順に進む。山合宿の結果は、  
体力の向上、精神的な成長などである。山合宿は、  
登山愛好者にとって必須の経験である。

生原 寛  
合宿前

自分に課せられた任務を主眼として、  
個人準備が万全で、任務を遂行するために必要な  
用具、食料、水などを準備し、任務に専念する。  
任務の遂行は、安全を第一とし、任務の達成を目指す。  
任務の遂行中は、周囲の状況に注意し、危険を回避する。  
任務の遂行後は、任務の振り返りを行い、今後の任務に  
活かす。



らこのの  
がこのの  
なほいカ本  
山は、にテ  
の。でな持ス  
らた。としなを  
いか思。うを直す  
雑取とりだ辞台ま  
はこりしので山い  
要、な新へめ冬て  
た。が。目般改の。  
た。いなく全。こ思  
っなばて山りほと  
か取れみ登なにい  
うしりてのら宿た  
急もなえ分な合し  
。かし終自て山加  
いる意をてじ着参  
ずあ留宿め感のに  
までに合改く後約  
えの特の)強月程  
さまにこがをう積  
との点。すさこて